

保育内容の理解と方法を段階的に実習の 実践に繋げて学ぶ取り組みの一考察

One consideration of the approach to connect understanding and the method of
childcare contents with practice of the training progressively, and to learn

菜 原 桂 子*

Keiko NAHARA

I. はじめに

教育実習において、学生が実習前にしっかりと準備を整えておきたい内容の一つとして、実習現場で実際に子どもたちに保育を展開する実践的内容があげられる。また、教育実習の実習園からの問い合わせや実習園と養成校の交流の場などで話題になるのは、実際に子どもたちに展開するための保育内容に関する実践的な内容はどの程度学んできているのか、ということである。本学では各教科や保育の内容の理解と方法などで演習的な取り組みを多く取り入れ、授業内容の修得に関しても一定の目標に到達しているように理解してきた。しかし、実際には「例えば、保育における製作の活動内容について実際に学んできているのだろうか。」という質問を受けることがあった。なぜこのような質問を受けるのか詳しく把握するべく、学生の実習報告書や実習評価表、実習訪問指導記録などから読み取った結果、学生が自分で指導案を立案し計画を立てて設定保育を行うというところに課題が多いことが分かった。その結果、各授業で保育の内容の理解や方法等学び技術や種類を習得し自分自身が行うことはできるようになっていることが多いが、その習得内容を実際に保育の現場で展開することは難しい状況があるように読み取ることができた。つまり、授業で習った内容を実際に保育として展開するには、いくつかの段階を経験することが必要なのではないかと考えたのである。よって、今回は、保育内容の理解と方法Ⅳの授業から、一つの実践内容を課題とし教育実習講義Ⅱの授業内の事前指導の部分に繋げていくことを試みたいと考え授業計画を構成した。さらにはその内容を、実際の教育実習で実践して教育実習講義Ⅱの事後指導の部分で評価・反省を行い考察するという科目の連携を通して段階を追った取り組みを行う。本稿は授業で学んだことを段階的に詳細に取り組みることにより、今後の教育実習・保育所実習・施設実習をはじめとした、保育者・教育者としての成長にどのように活かされていくことが期待できるのかを考察したものである。

*北翔大学短期大学部こども学科

II. 保育内容の理解と方法Ⅳの取り組み

II-1 授業の概要と方法

○開講学期：保育内容の理解と方法Ⅳ 1年次後学期

○対象学生：こども学科1年生 124名 2クラス合同 3展開

ABクラス：38名・CDクラス：42名・EFクラス：43名

保育内容の理解と方法Ⅳは児童文化財（絵本・紙芝居・素話・パネルシアター・ペープサート・人形劇・その他の教材を使用したシアター）等の歴史や特徴、実践方法、留意点について理解し、それらを活用した保育の実践について学ぶ。そのことが子どもの言葉の発達や遊びの展開にどのように関わっていくのかを考察し、保育の現場における子どもの遊びの援助・留意点について理解を深めながら保育者にとって必要とされる豊かなスキルも身に着いていくことがのぞましい。そのためには保育現場で教材を場面に応じて効果的に活用する経験は重要である。授業内で児童文化財について学び、それらを踏まえ他教科で今日まで学んできた内容も含めて教材（実習現場で行う自己紹介のオリジナル作品）の計画案を立案し提出する。その後、冬休みの課題として実際に作品を製作し、一人ひとり評価とアドバイスを行う。修正や再度検討する等、追加を行いより良いものにしてから、2年次前学期の教育実習講義Ⅱで指導案を作成する運びに繋げていくのである。この授業での取り組みはここまでとなる。

II-2 実習自己紹介教材案（計画書）

実習自己紹介教材案（計画書）には次の内容を記述する。

①教材名

自分が製作する作品に愛着を持ち個性を生かして創意工夫を行い取り組む意識を深めるために自己紹介の作品にあった名前を付ける。

②製作時の材料

保育活動時における事前準備の重要性を認識するために、製作内容をしっかり立案し具体性をもって製作内容を捉えるために、よく考え使用するものをすべて書く。

③教材の内容説明

オリジナル性を重要視するが、児童文化財として子どもたちに展開することを想定して保育活動の展開に使用することができるものを考えることを目的とする。そのために教材の種類を明確にし、何をどのように使用して製作を行うのか図等を用いて詳細に記述する。

④展開の流れ

指導案を立案し記述を行うことにつながるように、主活動となる展開の部分として進め方の手順、つまり展開におけるプロセスを明確に書くように指導する。重要に考える部分としては、子どもたちの前で実際に行うことを想像しながら時間をかけて、しっかり書いていくようにす

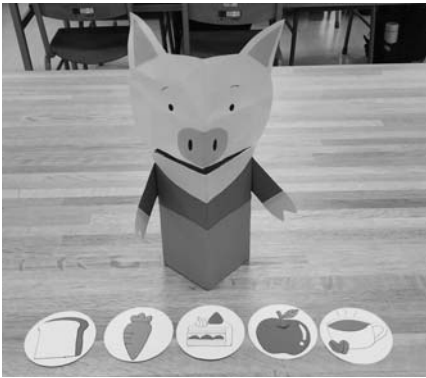
パペット



スケッチブックシアター



工作（牛乳パックを使って）



ペーパサート



Ⅲ. 教育実習講義Ⅱ（事前指導）の取り組み

Ⅲ-1 授業の概要と方法

○開講学期：教育実習講義Ⅱ 2年次前学期

○対象学生：こども学科2年生 102名 内幼稚園教育実習履修希望者93名

演習のみ2クラスずつ合同 同時3展開開講 指導教員3名

教育実習講義はⅠとⅡに分かれ教育実習講義Ⅰは15コマ1年後学期に開講し、教育実習の事前指導に関する内容を行う。主に実習の心得、書類関係、指導案について、日誌の記述の仕方等、学ぶ。教育実習講義ⅡはⅠの延長線上にあり、前半8コマは教育実習事前指導、直前の実習に関する内容の理解を目的としている。ここでは、保育内容の理解と方法Ⅳで計画を立てて製作した教材を教育実習で実践するための準備として指導案の作成を行い、作成した指導案を実際に模擬保育を行い実践し検討する。

IV. 教育実習での取り組み

IV-1 オリエンテーションでの依頼

本学の教育実習は2年次前学期5月中旬頃に行われている。本実習関連では一番初めに開始する。実習開始の1ヵ月前に実習事前訪問（オリエンテーション）に伺い実習計画を相談していく流れとなる。そこで、自作の教材を使用して自己紹介を実践させていただき依頼を行うところも課題の一つとなる。実習園の許可をいただき実習園の子どもの様子や環境を考慮して再度検討しながら準備を進める。

IV-2 教育実習での実践

実践については、ほとんどの実習園が大変協力的であり、実習初日に実践させていただいている。また、1回ではなく実習クラスが変わるたびに行う事ができたり、全クラスで1回ずつ行う等、多いところでは6回も経験させていただくこともある。そのような状況は学生にとってとても意義深く、大きな経験と学びに繋がっている。その中では当初の目的以上、教育実習の期間内で評価・反省を行って次につなげて実践するサイクルができていることもある。

V. 教育実習講義Ⅱ（事後指導）の取り組み

V-1 自己紹介作品報告書（実践報告書）記述内容について

①作品名

計画の段階でも製作する教材に名前がついているが実際に完成してからさらに工夫された作品名が付いている。例えばパペットなどは「象のパペット」から「なかよしパオ君」になっていたり「自己紹介仕掛け紙芝居」から「ミラクルマジック・スクリーン」に変化している。

②作品の説明

作品名が変化をとげ、オリジナル性が強まるにつれ、どのようなものなのか不明になってくるケースが多い。そのため、より具体性を持たせて文章で伝わるように記述するようにする。

③実践日時

実際に実践した日時をすべて記述する。ここから明確な実践回数を読み取ることが出来る。

④実践クラス

クラス名と何歳児のクラスなのかを記述する。

⑤実践の手順

どのような環境構成の中で、どのように展開したのかをできるだけ詳細に記述する。ここを明確に記録することにより後の良かった点や改善点、反省点が明らかになり自己課題が具体的になる。

⑥子どもたちの反応

実際に子どもたちはどのような反応だったのかをできるだけ詳しく書く。各年齢で実践でき

実践報告書からは子どもたちの反応を通して良かった点や改善点を明確にすることができている。そのことが自己課題となり後の保育実習に向けて再度取り組むことができる。子どもの反応や良かった点、改善点は主に次のような内容が挙げられた。

VI-2 子どもたちの反応

パネルシアター	自己紹介で好きなものを紹介すると「私も好き。」「それ知ってるよ。」「なんでひっつくの?。」等、言葉を発して楽しそうだった。
紙芝居	集中して見ていた。場面が変わるたび思ったことを言葉にしていた。(似顔絵など「似てる。」「かわいい。」等)
エプロンシアター	初めて見るエプロンに興味を示した。「触ってみたい。」と言っていた。
工作	教材に興味を示し「何それ。」「なんか出てきた。」等、集中しやすかった。
スケッチブック	書いてある文字を見て一緒に答えてくれた。「絵が上手。」「すごい。」「〇〇先生。」とそれぞれ言葉をかけてくれた。
ペープサート	反応が良く「楽しかった。」「またやりたい。」と参加したあと多くの感想がきけた。
自分物語絵本 クイズの仕掛け絵本	クイズで参加の部分ではバレーボールの絵を見て「サッカーボール。」と答えていた。「ば」から始まることを伝えると「バッカーボール。」と答えていた。仕掛けの部分では「すごい。」「もう一度やって。」と驚いていた。
パペット	とても喜んで実習生の本当の友達だと思って色々家での様子を質問してきた。実習終了まで話題になっていた。「お家に連れて帰りたい。」と言っていた。
手袋シアター	「かわいい。」と反応して一緒に指を動かす姿が印象的だった。
カード	一つ一つの絵に対して興味を持って問いかけに元気に答えていた。全部終わったあと「もうないの?。」「もうおしまい?。」と少し残念そうだった。
パタパタパネル	パタパタになった時「おーっ。」「わあー。」等歓声が上がり拍手が起こった。
教材を用いた替え歌	実習生が歌った後に元気で歌ってくれた。「カレー好き。」「辛いから嫌い。」等感想を言っていた。福神漬は知らない子どもが多かった。

VI-3 良い点と学んだこと

パネルシアター	絵を大きくして文字を紹介したので文字が読めない子も声を出してくれた。パネルシアターは身近な教材として子どもたちに親しみがあったので展開しやすかった。
紙芝居	物語内容を考慮したので興味を持って見入っていた。ストーリーにユーモアを持たせた点が良かった。
エプロンシアター	フェルトの素材感が子どもたちの触ってみたいという興味につながった。
工作	初めて見るものや想像がつかないものなので集中の体制に入りやすく展開がうまく行った。
スケッチブック	安定していて展開しやすい。持ち運びに向いていて紛失や壊れる心配がほとんどなく安心できる。
ペープサート	ある程度人数が多い場合でも全体によく見えた。場所を選ばずホールなどでもやりやすい。
絵本	物語にしたのでしっかりと聞くと参加して盛り上がる場所とメリハリができて良かった。 仕掛けは子どもにとってとても不思議だったようで感性に届いた実感を感じることができた。

パペット	名前を付けて演じ方を何度も練習したので良かった。子どもも触れるようにしたので喜んだ。
手袋シアター	少ない人数で回数を多く展開できたのでコミュニケーションが取りやすかった。
カード	子どもたちの様子に合わせてアドリブがきく。クイズなどにも使うと時間や状況に合わせてすぐに展開できる。保育活動の導入などにも利用できることを思いついた。
パタパタパネル	大きさも丁度良く展開を楽しんだ後に盛り上がり終了することができる。
教材を用いた替え歌	子どもの声を拾いながら進めることができたところ。歌と一緒に歌う事によってコミュニケーションをとることができて距離が一気に近くなった気がした。

VI-4 改善点と学んだこと

パネルシアター	後ろの子どもにもよく見えることを考えた場合絵が少し小さかった。次回は一回り大きく製作したい。背景をはじめから貼って展開すると画面がもっと華やかになると思った。
紙芝居	自分物語りはただ自分紹介ではなくストーリーを工夫する。参加型は喜んで見ることができる。
エプロンシアター	使用パーツが少ないと年長には物足りないことが分かった。全身に注目を浴びるので緊張する。
工作	珍しいものだと子どもたちの関心が高まり触ってみたいという意欲にこたえることを想定して製作することまで考えると良かった。
スケッチブック	単純な展開になりやすいので工夫が必要。環境に合わせて文字や絵の大きさを考えることが必要。
ペープサート	平面で単調になりがちなため豊かな表現力を持って展開することが大切。練習をしっかりと行う必要がある。
絵本	大きさは変えられないので事前に展開の環境構成についてよく相談することが必要。
パペット	最後は毛玉だらけでボロボロになったのもって帰ってきたが、子どもが寂しがっていたと聞いておいてきて良かったと思った。
手袋シアター	展開がシンプルでコンパクトなため、歌などもとりいれて充実させる必要がある。
カード	製作はしやすく手軽だが展開はしっかり考え幅広く考えておかないと子どもたちの反応に左右されやすく場合によってはうまくいかないこともある。流れをしっかりと覚え練習を行わないと展開に戸惑ってしまうので気を付ける。
パタパタパネル	スムーズにパタパタと開くことができるように調整をしっかりと行って取り組むこと。
教材を用いた替え歌	緊張のあまり、明るく笑顔で子どもたちに働きかけるようにできなかったので次の課題としたい。

Ⅶ. ま と め

以上のように1年次後学期より2年次前学期までの段階を踏んだ取り組みによる実践としてまとめたが、学生が一番学びたかったことは自分が試行錯誤して考え、一生懸命に取り組んだ教材が子どもたちにとって、どのようなものであるのか、実際に楽しむことができるのか、魅力のあるものなのか、というところのようである。思ったよりも反応が良く子どもたちが楽しむことができれば喜びや自信につながり、自分の中で改善点が見つかれば、案を練り直して、

先の保育実習でも実践するチャンスがある。この段階を体得し、基本的な意識や姿勢の中に加え、繰り返すことが積み上げることだと気が付くように指導者側も意識することが重要なのではないかと考える。後の保育者として自己の保育を省察し、より良い保育を追求する向上心につながることを願いたいところである。

近年、教育実習園からは、次のような意見をいただく機会が多い。「失敗を恐れて積極的に行動できないケースが多い。」「何かやってみますか。と提案すると（やならくても）大丈夫です。と答える。」「緊張が長く続きすぎて、本領を發揮できたのは最後の一週間であった。」等である。この事実を受け止め、その改善を目指し、段階を追って実践的に学び、子どもたちとの実際のふれあいや反応から多くを学び、次の機会に繋げることができれば、よいと考える。

教育実習は短い期間で積極的に子どもと関わり理解を深めることや、保育者の姿を通して園の実際を学ぶことが大切である。また、大学で学んだ教職に関する基礎的な知識や理論、技術を子どもたち一人ひとりの成長や発達、個性に合わせて有効に生かすことができる力の基礎を学ぶことが本来の目的となっている。時には失敗も多く経験し、そこから学ぶことに大きな意義があるのではないだろうか。

今回の長期間にわたる段階的な取り組みが、学生一人ひとりの今後の実習・保育者へのより良い学びにつながるきっかけとなれば大変幸いなことである。

文 献

- 久富陽子「学びつづける保育者を目指す実習の本」萌文書林 2014年5月29日
- 川勝泰介・浅岡靖央・生駒幸子「言葉と表現力を育む児童文化」萌文書林 2013年12月15日
- 松本和美「保育に役立つ言語表現教材」株式会社みらい 2015年9月30日
- 高橋一夫「ことばを育む・保育に活かす言語表現」株式会社みらい 2014年4月15日
- 山本美貴子・松山洋平「事前・事後学習のポイントを理解！保育所・施設・幼稚園実習ステップブック」株式会社みらい 2017年3月1日
- 厚生労働省編「保育所保育指針解説」フレーベル館 2018年5月16日
- 文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 2018年3月23日
- 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館 2018年3月29日
- 北翔大学・北翔大学短期大学部「2019教育実習の手引き」小南印刷株式会社 2019年4月1日
- 菜原桂子「学生が考える教材作成の取り組みー子どもが楽しむ音楽表現の活動についてー」『北翔大学短期大学部研究紀要』第56号105頁 2018年3月15日
- 菜原桂子「幼稚園教育実習・保育所実習における指導案の現状と課題」『北翔大学短期大学部研究紀要』第55号139頁 2017年3月25日